

子どもの尿検査について

小児科 小松 弘明

尿検査は、子どもにとって、痛みを伴うことなく簡便にできる検査の一つです。このため、病院を受診した時や、幼児健診／園児・学校検診でしばしば行われます。

尿検査には大きく三つの意味があります。一つは尿をつくる働きを主にして、腎臓の様子を知ること、もう一つは尿の通り道の様子を知ること（腎臓から尿管を伝って膀胱へ、しばらく貯まってから尿道を通して排泄されます）、最後に尿のもととなる血液や体の状態を知ることの三つです。

具体的にはどのような場合に尿検査を行うのでしょうか。

まず健康な時に行う場合として、健診・検診での尿検査があります。これは主にゆっくりひっそりと進行する腎臓の病気（慢性の腎炎など）の有無を調べるために行われます。腎臓はその機能が半分になっても自覚症状が出ない場合もあります。元気なうちに早期発見し、対策をとるために行う検査です。検査項目のうち、主に血尿や蛋白尿の有無を確認します。

またこれとは別に、体調の悪い時に病院で行う場合があります。尿検査により、乳幼児の長く続く高熱の原因が尿の感染と分かることがあります。頻尿・排尿時痛・下腹部痛などの症状で膀胱炎などを疑う場合にも調べます。嘔吐や下痢が激しい時には脱水の有無や体液などのバランスが崩れていないかどうかを検査します。急に太ったり痩せたりした場合には体の中での糖の様子などの確認のために行うこともあります。他にむくみや低身長や夜尿症（いわゆるおねしょ）の原因などを調べるために行う場合もあります。

適切に取られた尿でなければ、さまざまな要因（運動や食事など）が尿に影響を及ぼしてしまい、正しい検査結果が得られません。なるべく“朝一番の濃い尿を、清潔に、必要な量（少なくとも10cc以上）”取るように心がけて下さい。

検診などの元気な時の検尿は“安静時早朝尿”であることが大事です。前の日には激しい運動などは控え体調を整え、早めに夕食を摂り（食事中や食後の甘いものも控えて）、寝る前にしっかりと排尿を済ませ、翌朝の起きてすぐの間尿を取ってください。検診結果も一緒に持参して下さい。

尿の感染症を疑って受診する場合は、できるだけ外陰部などをきれいに拭くなどして早朝中間尿を持参してもらえると診察診断がスムーズに出来ます。

急に体調を崩して小児科を受診する時にも、尿検査を行う場合があるので、家を出る時におしっこを済ませずに来ていただくと助かります。

また採尿してから時間が経つと検査結果に様々な影響が出ます。午前中に持参していただくようお願いします。

ワクチンの打ち忘れはないでしょうか？
ワクチンには期限のあるものがあります。
誕生日の前や年度末前には余裕をもって、もう一度確認しましょう。

日本脳炎ワクチン接種が4月から通常通りに再開となります。
待っていただいていた方にはご迷惑をおかけしました。

オンライン面会を行っています。

予約制となっておりますのでご希望の方は

公立世羅中央病院 ☎0847-22-1127へお問い合わせください。

